

大会宣言

職場と地域から声をあげ、物価高騰をのりこえる賃上げと あらゆる差別のない平和で公正な社会をつかみとろう！

私たちは、2024国民春闘で歴史的な物価高騰のもと、「おかしいことはおかしい」とみんなで声をあげ、「社会的な賃金闘争」と「たたかう労働組合のバージョンアップ」を両輪ですすめ、大幅賃上げ、ジェンダー平等、大企業に社会的責任果たさせる課題などで前進を築いてきたことを第70回定期大会で確かめ合いました。

春闘では、多くの仲間がストライキに立ち上がり、みんなでそれを支え26年ぶりとなる賃上げを勝ち取りました。わたしたちは、自らの手で賃金の上がない国から、賃金上がる国への足がかりを着実に作り上げています。物価高騰を乗り越える大幅賃上げの実現は、まさにこれからが本番です。

45年間、あきらめずにとりくみ続けたトヨタ総行動では、とうとうトヨタ自動車が私たちの要請書を受け取りました。そして、その要請から間もない2月19日には、下請企業での賃上げによる労務費上昇分を下請工賃に価格転嫁することを認めると発表しました。今回は1次下請400社に限られましたが大きな成果です。最低賃金全国一律の法制化をめざす運動では、与野党の120人を超える衆参議員が紹介議員になるまでの前進を築き上げました。76年ぶりとなる保育士配置基準の見直しも、保育労働者と保護者が手をつなぎ愛知発の運動で実現させました。職場と地域から当事者が声を上げることが変化をつくり出していることに確信を持ち、とりくみをすすめましょう。

能登半島地震から半年が経過しました。元日から時計が止まったかのような被災地、長期化する高齢者などの避難生活が公共のもろさを浮き彫りにしています。国の指示権を強めるのではなく、新自由主義からの転換で、公共の再生を住民とともにすすめましょう。愛知で開催される全国自治研集会（10月）、日本高齢者大会（11月）をたたかいの結節点とし成功させましょう。

6月に発表された日本のジェンダーギャップ指数118位は、労働組合にとっても直ちに解消しなければならない課題です。ジェンダー平等や多様性、「対話」と「学びあい」を大切に、ひとりひとりの組合員が主人公となる組合運営で「希望を抱ける未来」を実現しましょう。そして、その基盤となるのは平和で公正な社会を実現する要求とこれを保障する日本国憲法です。憲法9条が戦後80年間、この国に戦争を招かなかったこと、核兵器禁止条約の発効など平和を求める人々の運動が世界を動かしていることを確信にしましょう。

NHK朝ドラ「虎に翼」に共感が集まっています。主人公の恩師である最高裁判事はこう言います。「法で道徳を規定するなど許せば、憲法14条は壊れてしまう。道徳は道徳、法は法である」と。河村たかし名古屋市長が「祖国のために命を捨てるのは高度な道徳的行為」と発言しましたが、まさに憲法違反であり断じて許すことはできません。来年4月には名古屋市長選挙があります。みんなで「おかしいことはおかしい」と声をあげ、政治を変えましょう。

仲間を増やして要求を実現するとりくみに確信を持ち、5万人愛労連を一刻も早く回復させ、さらに盛りだくさんの要求を実現させることができる愛労連をつくりましょう。

以上、宣言します。

2024年7月21日

愛労連第70回定期大会